



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山下 正弘

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 伊藤 洋
グループ経理財務統轄部長

TEL 03-3293-3420

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日 配当支払開始予定日 平成23年12月2日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家等向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	46,387	△0.7	4,900	16.6	5,253	15.6	3,355	13.4
23年3月期第2四半期	46,707	2.2	4,201	△8.1	4,542	△12.2	2,959	△10.1

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 3,635百万円 (32.3%) 23年3月期第2四半期 2,746百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	44.90	—
23年3月期第2四半期	39.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	138,440	112,717	81.4
23年3月期	147,234	111,706	75.9

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 112,717百万円 23年3月期 111,706百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	10.00	—	35.00	45.00
24年3月期	—	10.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	35.00	45.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	105,100	1.0	14,900	△9.4	15,600	△8.8	10,100	△7.6	135.16

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	74,947,628 株	23年3月期	74,947,628 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	224,073 株	23年3月期	219,032 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	74,726,279 株	23年3月期2Q	74,742,501 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。
2. 平成23年5月11日に公表いたしました、平成24年3月期の連結業績予想のうち、通期について本資料において修正しております。詳細は3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7) その他の注記事項	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における国内経済状況は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災や原発事故、電力供給不安の影響等により低調な推移を余儀なくされました。国内医薬品業界では、新たな医療費抑制策の実施はなかったものの、低迷する経済情勢にあって、企業間競争は激化し、経営環境は一層厳しさを増しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画「HOPE100—ステージ1—（平成22年度～平成27年度）」の2年目として、事業戦略である「ファーマ・コンプレックス・モデルの具体化」「ヘルスケア新規事業の創出と育成」の達成と共に、次年度に予定されている薬価基準改定などへの対応等に取り組み、持続成長とステークホルダーの皆様からの支持・評価の向上に努めました。

医薬品事業では、国内新医薬品は主要製品の普及に努めましたが、震災に伴う在庫不足を考慮した前倒し発注により3月期末の流通在庫が増加したことで、当第2四半期連結累計期間の売上は前年同期に対し若干の増加に留まりました。一方、海外新医薬品は主要製品の売上が減少し前年を下回る実績となりました。後発医薬品においては市場ニーズに応える営業展開を推進しましたが、東日本大震災の被災地域にある販社が影響を受けたこと等により前年同期に対して横ばいで推移しました。

ヘルスケア事業は、景気低迷の影響等もあり売上が前年を下回りました。

この結果、売上高は463億87百万円と前年同期比3億20百万円（前年同期比0.7%減）の減収となりました。

利益面では売上は減少したものの、原価率の低い自社製品の売上増加、工場稼働率の向上、製造費削減等により原価率は約1ポイント低下し、売上総利益は297億76百万円と前年同期に対し1億52百万円増となりました。また、販売費及び一般管理費は、研究開発費の減少により前年同期に対し5億47百万円減少したため、営業利益は49億00百万円と前年同期比6億99百万円（前年同期比16.6%増）の増益となりました。また、経常利益は52億53百万円（前年同期比15.6%増）、当四半期純利益は33億55百万円（前年同期比13.4%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績

売上高	463億87百万円	（前年同期比	0.7%減）
営業利益	49億00百万円	（前年同期比	16.6%増）
経常利益	52億53百万円	（前年同期比	15.6%増）
当四半期純利益	33億55百万円	（前年同期比	13.4%増）

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①医薬品事業

〔国内新医薬品〕

呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科を中心とする特定領域の医師・医療機関に営業活動を重点化するフランチャイズカスタマー（FC）戦略及び卸店政策の強化により、製品の普及の最大化を推進し処方数量の増加、売上拡大に努めましたが、平成23年3月に発生した震災に伴い、在庫不足を考慮した前倒し発注により、流通在庫が3月期末に増加し、その反動により売上高は前年同期に対し若干の増加に留まり、381億29百万円（前年同期比1.1%増）となりました。主要製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」が前年を上回る実績で推移しましたが、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」は前年を下回りました。

〔海外新医薬品〕

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン（導出先：米国アラガン社）」の売上が前年を下回り、売上高は9億68百万円（前年同期比35.4%減）となりました。

〔後発医薬品〕

昨年度より推進されている後発医薬品の使用促進策等により保険調剤薬局への売上は増加したものの、全体では東日本大震災の被災地域にある販社の影響等により売上が減少し、売上高は40億97百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

〔一般用医薬品他〕

景気の低迷する中、主要製品である哺乳びん殺菌消毒剤「ミルトン」は営業力を強化することで前年の売上を確保しましたが、その他の製品売上が前年を下回り、売上高は19億59百万円（前年同期比4.4%減）となりました。

この結果、当セグメントの売上高は451億55百万円（前年同期比0.5%減）となり、営業利益は48億01百万円（前年同期比18.7%増）となりました。

②ヘルスケア事業

ナノカプセル技術を応用した化粧品事業を行うドクタープログラム(株)の売上が前年を下回る実績となりました。この結果、当セグメントの売上高は12億32百万円（前年同期比7.6%減）となり、営業利益は5百万円（前年同期比56.4%減）となりました。

当社グループの中核事業における研究開発の状況は、以下のとおりであります。

当社グループでは、世界に導出できる新薬の創出と提供が新薬メーカーとしての存在意義を高め、持続成長に結びつくとの認識に基づき、自社創製品、導入品による特定領域における魅力ある新薬パイプラインの構築と既存品のライフサイクルマネジメント（新効能・効果取得、剤型追加）に積極的に取り組んでいます。自社創薬活動では、研究領域を呼吸器・泌尿器・感染症・その他に重点化し、効率的かつ効果的な新薬創製に努めています。

当第2四半期連結累計期間におきましては、開発パイプラインの充実に向け、国内開発として潰瘍性大腸炎治療剤「ペンタサ」の新用法・用量及び新剤型に関するPhⅢ臨床試験、気管支喘息治療薬「KRP-108」のPhⅢ臨床試験等に積極的に取り組みました。また、耳鳴治療薬「KRP-209」のPhⅡ臨床試験及びニューキノロン系合成抗菌剤「KRP-AM1977X」のPhⅠ臨床試験を開始いたしました。その結果、研究開発費は、60億75百万円（前年同期比11.7%減）となりました。前年同期から研究開発費が減少した要因は、前年同期に気管支喘息治療薬「KRP-108」のPhⅡb臨床試験終了に伴う費用などが発生したためです。

生産面では、品質の高い製品の安定供給を第一と考えております。当第2四半期連結累計期間では、東日本大震災による電力不足等の影響を考慮し、能代工場（秋田県）において5月から7月初旬に前倒し生産するなど夏場の電力不足への対応を図り、医薬品の安定供給に最大限の努力をいたしました。なお、現在も同工場での冬場の電力供給対策として全面自家発電に切り替える取り組みを推進しています。当社グループは、今後も高品質の製品を安定的に供給できる生産体制の構築を推進してまいります。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、流動資産が現金及び預金、受取手形及び売掛金の減少等により88億17百万円減少し、固定資産が有形固定資産の減少、投資有価証券の増加等により23百万円増加したため、前連結会計年度末と比較して87億93百万円減少し、1,384億40百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金、未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末と比較して98億04百万円減少し、257億23百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末と比較して10億11百万円増加し、1,127億17百万円となりました。

この結果、自己資本比率は81.4%となり、前連結会計年度末より5.5ポイント増加いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、71億36百万円の収入であり、これは主に税金等調整前四半期純利益52億40百万円、減価償却費11億22百万円、売上債権の減少90億10百万円、たな卸資産の増加22億13百万円、仕入債務の減少29億95百万円、法人税等の支払34億66百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、24億15百万円の支出で、これは主に有価証券の売却及び償還による収入13億00百万円、有形固定資産の取得による支出5億77百万円、投資有価証券の取得による支出38億27百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入6億09百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、67億19百万円の支出で、これは主に短期借入金の減少39億90百万円、配当金の支払26億04百万円によるものです。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して20億26百万円減少し、246億38百万円となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月11日に公表しました連結業績予想を以下のとおり修正いたしました。

売上高	1,051億円（前年同期比	1.0%増）
営業利益	149億円（前年同期比	9.4%減）
経常利益	156億円（前年同期比	8.8%減）
当期純利益	101億円（前年同期比	7.6%減）

なお、海外売上における為替レートは1US\$80円、1ユーロ112円を想定し、計画しています。

売上高は当第2四半期連結累計期間における業績の状況を勘案し下方修正いたしました。費用面では、喫緊の課題である開発パイプラインの充実に向け、新薬開発を強力に推し進め、研究開発費が前回予想を8億円上回る見通しとなりました。これらのことから、平成23年5月11日の公表値から売上高は14億円減の1,051億円、営業利益は17億円減の149億円、経常利益は16億円減の156億円、当期純利益は8億円減の101億円に修正いたしました。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,518	23,311
受取手形及び売掛金	42,594	33,583
有価証券	6,976	8,872
商品及び製品	10,471	11,620
仕掛品	1,024	937
原材料及び貯蔵品	8,868	10,021
繰延税金資産	2,618	2,674
その他	6,420	4,635
貸倒引当金	△65	△47
流動資産合計	104,427	95,610
固定資産		
有形固定資産	14,916	14,261
無形固定資産		
のれん	339	262
その他	476	451
無形固定資産合計	816	713
投資その他の資産		
投資有価証券	21,660	22,750
繰延税金資産	4,111	3,830
その他	1,724	1,694
貸倒引当金	△422	△420
投資その他の資産合計	27,073	27,855
固定資産合計	42,806	42,830
資産合計	147,234	138,440

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,852	7,856
短期借入金	6,996	2,999
未払法人税等	3,437	1,831
賞与引当金	3,222	3,105
返品調整引当金	52	28
ポイント引当金	59	55
その他	5,801	5,265
流動負債合計	30,421	21,143
固定負債		
長期借入金	449	391
退職給付引当金	3,765	3,354
役員退職慰労引当金	23	27
その他	867	806
固定負債合計	5,105	4,579
負債合計	35,527	25,723
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	106,928	107,668
自己株式	△304	△312
株主資本合計	112,076	112,808
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△137	144
為替換算調整勘定	△232	△234
その他の包括利益累計額合計	△370	△90
純資産合計	111,706	112,717
負債純資産合計	147,234	138,440

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	46,707	46,387
売上原価	17,083	16,611
売上総利益	29,623	29,776
販売費及び一般管理費	25,422	24,875
営業利益	4,201	4,900
営業外収益		
受取利息	140	100
受取配当金	56	69
受取賃貸料	136	134
持分法による投資利益	20	20
その他	34	78
営業外収益合計	389	403
営業外費用		
支払利息	23	27
投資事業組合損失	12	22
その他	11	0
営業外費用合計	47	50
経常利益	4,542	5,253
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4	—
固定資産売却益	—	2
投資有価証券売却益	20	1
特別利益合計	25	3
特別損失		
固定資産除売却損	9	8
投資有価証券売却損	0	—
ゴルフ会員権評価損	1	—
投資有価証券評価損	0	7
特別損失合計	11	16
税金等調整前四半期純利益	4,556	5,240
法人税、住民税及び事業税	1,405	1,860
法人税等調整額	191	24
法人税等合計	1,597	1,885
少数株主損益調整前四半期純利益	2,959	3,355
四半期純利益	2,959	3,355

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,959	3,355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△170	282
為替換算調整勘定	△37	△2
持分法適用会社に対する持分相当額	△4	△0
その他の包括利益合計	△212	279
四半期包括利益	2,746	3,635
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,746	3,635
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,556	5,240
減価償却費	1,163	1,122
受取利息及び受取配当金	△197	△169
支払利息	23	27
投資有価証券評価損益(△は益)	0	7
売上債権の増減額(△は増加)	4,476	9,010
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,289	△2,213
仕入債務の増減額(△は減少)	△4,042	△2,995
その他	△953	420
小計	6,316	10,449
利息及び配当金の受取額	203	181
利息の支払額	△23	△27
法人税等の支払額	△4,383	△3,466
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,112	7,136
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	1,401	1,300
有形固定資産の取得による支出	△588	△577
有形固定資産の売却による収入	—	3
無形固定資産の取得による支出	△77	△80
投資有価証券の取得による支出	△2,402	△3,827
投資有価証券の売却及び償還による収入	934	609
その他	△164	156
投資活動によるキャッシュ・フロー	△898	△2,415
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△91	△3,990
長期借入れによる収入	100	100
長期借入金の返済による支出	△163	△164
配当金の支払額	△2,986	△2,604
その他	△57	△60
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,198	△6,719
現金及び現金同等物に係る換算差額	△48	△28
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,033	△2,026
現金及び現金同等物の期首残高	21,556	26,665
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,523	24,638

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	45,373	1,333	46,707	—	46,707
セグメント間の内部売上高又は 振替高	25	0	25	△25	—
計	45,398	1,334	46,733	△25	46,707
セグメント利益	4,043	12	4,056	144	4,201

(注) 1. セグメント利益の調整額144百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品事業	ヘルスケア 事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	45,155	1,232	46,387	—	46,387
セグメント間の内部売上高又は 振替高	42	0	42	△42	—
計	45,197	1,232	46,430	△42	46,387
セグメント利益	4,801	5	4,807	93	4,900

(注) 1. セグメント利益の調整額93百万円は、主にセグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) その他の注記事項

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。